医薬品ご使用に際してのお願い

2026 年 8 月作成

抗精神病薬･双極性障害治療薬･制吐剤

オランザピン錠2.5mg「YD」
オランザピン錠5mg「YD」
オランザピン錠10mg「YD」

制吐目的としてのオランザピン投与時の血糖管理について

今般、令和 8 年 8 月 25 日付 厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知により、電子添文の「1. 警告」「2. 禁忌」「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」の項を改訂いたしました。
また、同日付で示されました一般社団法人日本癌治療学会「制吐目的としてのオランザピン投与時の血糖管理について（要約版）」を以下にお知らせいたしますので、血糖管理の徹底をお願いいたします。

なお、より詳細な内容については、一般社団法人日本癌治療学会「制吐目的としてのオランザピン投与時の血糖管理について（速報版）」（https://gstu.members-web.com/gstu/img/guideline/olanzapine1.pdf）をご確認ください。

2026 年 8 月 25 日付 一般社団法人日本癌治療学会
「制吐目的としてのオランザピン投与時の血糖管理について（要約版）」

1.はじめに

多元受容体拮抗薬であるオランザピンは、著しい血糖値の上昇から、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡等の重大な副作用が発現し、死亡に至る場合があるため、血糖値の測定等の観察を十分に行うよう注意喚起されている。「統合失調症、双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善」の効能に対して、糖尿病またはその既往のある患者には投与禁忌であるが、「抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）」の効能に対しては慎重に投与可能となった。
本速報版では、糖尿病およびその既往のある患者に対して、制吐薬としてのオランザピンを安全に使用するための方法について概説し、医療機関および医療従事者が留意すべき内容をまとめた。本件は要約版であり詳細は日本癌治療学会制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ発出のガイドライン速報版を参考されたい。

2.糖尿病患者またはその既往のある患者に対する制吐療法の血糖管理について

抗がん薬治療に対する標準制吐療法に含まれるデキサメタゾンは、血糖値を上昇させるため、糖尿病またはその既往のある患者に対しては、必要に応じて、数日の入院管理のもとスライディングスケールを使用した血糖管理、具体的には、毎食前±眠前の 1 日 3 または 4 検の血糖測定を行い、血糖値に応じたインスリン投与が行われている。この血糖管理は、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖状態の発症予防に有用である。

3.糖尿病またはその既往のある患者に制吐目的でオランザピンを投与する場合の血糖管理について

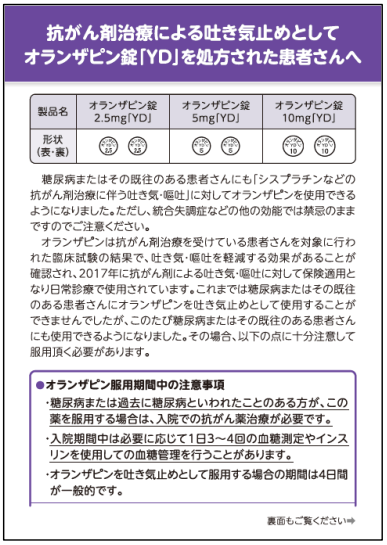
糖尿病またはその既往のある患者に対してオランザピンを使用する場合は、血糖コントロールが安定していることを確認のうえ、入院管理で化学療法を行う。化学療法前の検査で糖尿病が判明した場合や、血糖コントロールが不良と判断される糖尿病患者に対しては、内分泌内科・糖尿病内科にコンサルトを行い、化学療法前に十分な血糖コントロールを行う。糖尿病またはその既往のある患者にオランザピンを投与する場合は、外来治療が可能であっても入院治療とし、スライディングスケールを用いた血糖管理を行う。血糖コントロールに必要な入院期間については、血糖値上昇の原因となるオランザピンおよびデキサメタゾンの投与期間と投与量に留意し、血糖値が安定した状態（例えば、食前血糖値 200mg/dL 未満）であることを確認して退院を計画する。患者の症状を常に観察し、口渇や多尿など高血糖関連症状がある場合は、随時の検査確認を行うと共に、必要な入院管理を継続する。また、標準制吐療法のオランザピン投与日数（1〜4 日目の 4 日間）を遵守し、追加投与が必要な場合は入院管理を継続し必要最低限にする。スライディングスケールを用いても血糖管理がうまくいかない難渋例では、次コース開始前に血糖管理方法について内分泌内科・糖尿病内科にコンサルトを行う。

退院後の外来管理については、入院期間中に投与されたオランザピンによる血糖値への影響が懸念される。自宅で自己血糖測定ができるインスリン使用患者では、スライディングスケール管理が必要な血糖値が続く場合や、平時よりも明らかに血糖値が高い場合、インスリンを使用していない糖尿病患者は口渇、多尿、倦怠感などの症状が強いなど高血糖が疑われる場合には、特に注意が必要である。このような場合には、夜間・休日問わず受診している医療機関に連絡・受診するよう患者・家族への指導を徹底し、必要に応じて緊急時の病診連携等を整えておく。

患者用指導箋

本品は、患者様向けの指導箋を用意しております。患者様へのご指導にご活用ください。

指導箋をご入用の際やお問い合わせ等がございましたら、担当 MR 又は弊社お客様相談室までご連絡下さい。


抗がん剤治療による吐き気止めとして
オランザピン錠「YD」を処方された患者さんへ

製品名	オランザピン錠 2.5mg「YD」	オランザピン錠 5mg「YD」	オランザピン錠 10mg「YD」
形状（表・裏）			

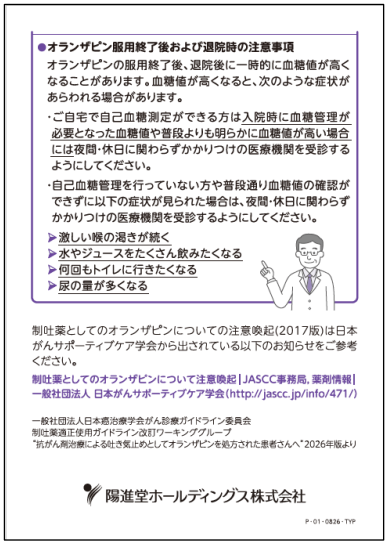
糖尿病またはその既往のある患者さんにも「シスプラチンなどの抗がん剤治療に伴う吐き気・嘔吐」に対してオランザピンを使用できるようになりました。ただし、統合失調症などの他の効能では禁忌のままですのでご注意ください。

オランザピンは抗がん剤治療を受けている患者さんを対象に行われた臨床試験の結果で、吐き気・嘔吐を軽減する効果があることが確認され、2017年に抗がん剤による吐き気・嘔吐に対して保険適用となり日常診療で使用されています。これまでは糖尿病またはその既往のある患者さんにオランザピンを吐き気止めとして使用することができませんでしたが、このたび糖尿病またはその既往のある患者さんにも使用できるようになりました。その場合、以下の点に十分注意して服用頂く必要があります。

●オランザピン服用期間中の注意事項
- 糖尿病または過去に糖尿病といわれたことのある方が、この薬を服用する場合は、入院での抗がん薬治療が必要です。
- 入院期間中は必要に応じて1日3〜4回の血糖測定やインスリンを使用しての血糖管理を行うことがあります。
- オランザピンを吐き気止めとして服用する場合の期間は4日間が一般的です。

裏面もご覧ください⇒

表面


●オランザピン服用終了後および退院時の注意事項

オランザピンの服用終了後、退院後に一時的に血糖値が高くなることがあります。血糖値が高くなると、次のような症状があらわれる場合があります。

- ご自宅で自己血糖測定ができる方は入院時に血糖管理が必要となった血糖値や普段よりも明らかに血糖値が高い場合には夜間・休日に関わらずかかりつけの医療機関を受診するようにしてください。
- 自己血糖管理を行っていない方や普段通り血糖値の確認ができずに以下の症状が見られた場合は、夜間・休日に関わらずかかりつけの医療機関を受診するようにしてください。

▶激しい喉の渇きが続く
▶水やジュースをたくさん飲みたくなる
▶何回もトイレに行きたくなる
▶尿の量が多くなる

制吐薬としてのオランザピンについての注意喚起(2017版)は日本がんサポーティブケア学会から出されている以下のお知らせをご参考ください。

制吐薬としてのオランザピンについて注意喚起｜JASCC事務局, 薬剤情報｜一般社団法人 日本がんサポーティブケア学会(http://jascc.jp/info/471/)

一般社団法人日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会
制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ
"抗がん剤治療による吐き気止めとしてオランザピンを処方された患者さんへ" 2026年版より

陽進堂ホールディングス株式会社

P-01-0826-TYP

裏面

本剤のご使用に際しては、最新の電子添文をご参照ください。

最新の電子添文は、弊社ホームページ（https://yoshindoholdings.co.jp/）及び医薬品医療機器総合機構のホームページ（https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html）に掲載いたします。
専用アプリ「添文ナビ」で右記 GS1 バーコードを読み取ることでも、最新の電子添文が閲覧できます。

オランザピン錠「YD」

製造販売元
陽進堂ホールディングス株式会社
富山県富山市婦中町萩島 3697番地の8

【お問い合わせ先】
陽進堂ホールディングス株式会社　お客様相談室
0120-647-734
受付時間：10〜17 時（土日祝日・弊社休業日を除く）